編集後記：私の「天気」のお気に入りは「日々の天気図」です．編集作業を急いでいる時でも，「日々の天気図」になると思わず作業を忘れて見入ってしまいます．旅行の時はあんな天気だったなあなどと，２ヶ月前のちょっと昔になった思い出が，天気とともに鮮明に蘇ってきます．

数年前まで，気象庁の現業当番で実況天気図を作成するという貴重な仕事をやらせてもらいました．夜勤に入り夕方の天気図を描くと，早朝に職場の休憩コーナーに届く新聞に自分の描いた天気図が載っている，という具合です．天気図は，大型タッチパネルにベースとなる数値予報や観測データを表示させてペンを使って作成しており，電子的になったとはいえ，今も昔も天気図は人による手描きである事には変わりありません．それだけに自分で描いたという実感があります．当番に入ってしばらくは厳しい先輩方による「修行」を受ける事になります．その修行を乗り越え，初めて独り立ちして天気図を描いた時は嬉しくて，夜勤明けにキヨスクで自分の天気図が載った新聞を買って帰ったのを思い出します．

そんな自分が気象に興味を持ったのは高校生の頃．山登りが好きで高校の山岳部に入部したのですが，「ラジオの気象通報を聴いていかに正確に天気図が描けるか」という大会の競技の選手となり，これが意外と面白くて，部室でラジオを録音しながらよく天気図を描いていた思い出があります．

それが気象に興味を持った最初のきっかけか，と言えばそうでもないかもしれません．小学生の頃でしょうか，誰に言われたわけでもないのに，新聞の天気図を切り取って集めて，クリップではさんでパラパラマンガ（低気圧や高気圧が動く）にして遊んでいたという記憶があります．今思えば何が楽しかったのかわかりませんが，その頃からなんとなく気象に興味があった表れなのでしょう．好きな事は子供の頃からやっぱり好きだった，というエピソードをよく耳にします．「天気」をご愛読頂いている皆様にも，子供の頃の思い出に，何か思い当たる事はありませんでしょうか？

今年，我が家に最初の子供が生まれました．生まれた日の天気図は印刷して保管してあり，大きくなったら見せるつもりでいます．数ヶ月たち，ある日，テレビの台風予想進路図の画像をじっと見ている我が子に気がつきました．もう数年経ったら新聞の天気図を切り抜いて遊んだりするのでしょうか？これからの成長が楽しみです．だた，新聞の代わりに「天気」の私のお気に入りの「日々の天気図」を切り取られないよう気をつけた方が良さそうです．こつこつと新聞の切り抜きを毎日集めなくても，ほんの数分で１ヶ月分のパラパラマンガがあっという間にできあがってしまいますから，狙われやすいかも知れません．

（佐藤大輔）